

農業経営者のみなさまへ

農業経営における 多様な働き方人材活用優良事例集



はじめに

今後、高齢化・人口減少が本格化し、地域の農地が適切に利用されなくなることが懸念される中、農地が継続的に利用されるよう、地域の農業を担う者を幅広く確保・育成することは喫緊の課題となっています。

そのような中、近年、副業やフリーランスといった多様な働き方への関心が高まっています。

特に、新型コロナウイルス感染症のパンデミックを契機に、リモートワークが社会に浸透する中、地方と都市との「デュアルライフ（二拠点生活）」「IUターン」が進むなど多様な生活スタイルが広がりを見せ、農業と別の仕事を組み合わせるなど多様な農業への関わり方もみられるようになってきています。

また一方で、近年、農業や「食」に対する関心を持つ異業種企業も増加しており、事業の拡大や地域社会への貢献などを目的に、農業法人等へ人材を派遣し交流する動きもみられます。

今後、農業経営者の皆様が、必要な人材を確保するためには、このような動きを踏まえた、多様な働き方の導入が重要な解決策の一つであると考えられます。

しかし多くの地域においては、このような人材を十分に活用しきれていない現状です。

そこで、今回、多様な働き方人材を活用している農業経営体、農業経営体に従業員を派遣等している異業種企業などの事例を調査し、その概要を取りまとめました。

令和5年4月

令和4年度農林水産省農業経営・改善支援調査委託事業
(受託者：株式会社ハローG)

目次

はじめに	1
調査概要	3
優良事例	
カテゴリーA	
有限会社小澤農場	4
環境緑花工業株式会社	6
株式会社瀬戸内ジャムズガーデン	8
農事組合法人 MYTURN (SCOOP FARM)	10
有限会社三隅町農業支援センターみらい	12
農事組合法人 YONESATA	14
カテゴリーB	
株式会社 JAL グランドサービス (JGS) 有限会社さかき	16
ダイハツ工業株式会社 農事組合法人山之上生産組合 (組合員：株式会社ファームタケヤマ)	19
南紀オレンジサンライズ FC 株式会社 Re・Side てらうめ有限会社	22
沼尻産業株式会社 株式会社照沼	25
ロート製薬株式会社 有限会社やえやまファーム	28
ワークウェア社会保険労務士法人 株式会社いで葉工望	31

調査概要

多様な働き方を認め、人材を活用している農業経営体6法人（カテゴリーA）、および農業経営体に従業員を派遣等している異業種企業6法人（カテゴリーB）とその受け入れ先農業経営体に対して、ヒアリング等を行い、具体的な取り組みと多様な働き方を推進するためのポイントなどを取りまとめました。

カテゴリーA

多様な働き方を認め人材を雇用している農業経営体。

有限会社小澤農場（新潟県）
環境緑花工業株式会社（青森県）
株式会社瀬戸内ジャムズガーデン（山口県）
農事組合法人MYTURN（SCOOP FARM）（千葉県）
有限会社三隅町農業支援センターみらい（島根県）
農事組合法人YONESATA（山口県）

カテゴリーB

従業員を農業経営体に派遣等している企業及びその受け入れ先。

出向元等	出向先等
株式会社JALグランドサービス（JGS） （千葉県）	有限会社さかき（千葉県）
ダイハツ工業株式会社	農事組合法人山之上生産組合 組合員：株式会社ファームタケヤマ（滋賀県）
所属元：南紀オレンジサンライズFC 株式会社 Re・Side（和歌山県）	副業先：てらうめ有限会社（和歌山県）
沼尻産業株式会社（茨城県）	株式会社照沼（茨城県）
ロート製薬株式会社（大阪府）	有限会社やえやまファーム（沖縄県）
共同雇用企業： ワークウェア社会保険労務士法人（愛知県）	共同雇用農業法人： 株式会社いで葉工望（山形県）

地方自治体と連携し、夏期の人手不足を解消

有限会社 小澤農場 (新潟県南魚沼市)

経緯・概要

- ・2017年1月に法人設立。魚沼産コシヒカリに加え、地域のブランド品目（八色すいか、八色しいたけ）などで経営の多角化を図り、通年雇用維持と収益性を確保。
- ・長年、農業体験や大学生のワーキングホリデーなどで農業経験のない人材を受け入れ。近年は、後継者不在の農地の受け皿として、農地集積化を進める。
- ・豪雪地域である南魚沼では、稲作の農閑期である冬場でも、スキー場の業務や除雪作業など、仕事には事欠かないため、季節労働者の受入れにも柔軟に対応してきた。
- ・2021年7月、新潟県南魚沼地域振興局が、1年を通じて当該地域に定着してもらうことを目的とした「農×Winter」マッチング支援を開始。夏のスイカの収穫時期は人手不足になりがちだったこともあり、「農×Winter」を通じて人材を募集。



小澤農場の従業員の皆さん

有限会社小澤農場

- <所在地> 新潟県南魚沼市茗荷沢新田28番地1
- <代表> 代表 小澤 顕也
- <法人設立> 2017年1月
- <売上高> 2億6,000円（2021年度）
- <社員数> 17名（役員5名（男）、正社員4名（男2、女2）、常勤パート8名（男4、女4））季節ごとのアルバイト雇用多数（2022年）
- <事業概要> 稲作、露地野菜（すいか）、しいたけの生産。
- <経営規模> 31.3ha（水稻25ha、すいか6.3ha）、しいたけ15棟（21万菌床）

【南魚沼】農×Winter～グリーンシーズンにお試し農業をしてみませんか？～

農×Winter～This is my life.～

農業名	住所	受入可能な就業形態	体験・勤務内容	受入時期
【南魚沼農場】	南魚沼市茗荷沢	・農業体験 ・短期就業 ・長期就業	・すいかの収穫作業 ・しいたけの収穫・調整作業	通年

「農×Winter」の紹介ページ
(新潟県南魚沼農業普及指導センター)

「農×Winter」とは

- ・南魚沼地域振興局が発案したライフスタイルの提案・支援活動。
- ・冬はスキー場やウィンタースポーツを主な活動としている方に、グリーンシーズン（春～秋）も農業分野で働いてもらうことで、1年を通じて自然豊かな南魚沼地域で過ごしてもらうためのマッチング支援。
- ・農業体験や就業（短期・長期など）の受入農家をホームページに掲載。

多様な働き方の人材の声



K 氏

【略 歴】冬は越後湯沢のスキー場のインストラクター、通年で占い師。食品工場での夜勤も行っていましたが、体調を崩し、夜勤を辞め、「農×Winter」を通じて、未経験だったが小澤農場に就農。30代。

【年間時間配分】農業（6～7割）、スキー業務（2～3割）、占い業務（1～2割）

【働いてみた感想】

- ・初めて小澤農場を訪問した際、他の仕事も継続したいこと、自身の性格や大切にしている価値観を、包み隠さず話した。それらを全て受け入れてくれたことにも感謝。事前に申請すれば、占い師の仕事の予定を優先してくれるので、助かっている。
- ・報酬よりも、昼間に働けること、自然相手の仕事であることが一番大切なこと。体調が整い、生かされているという感覚で、人生観も変わった。例えば、夏の暑い時期の作業などから、忍耐強さを身につけ、収穫した農産物を慈しむようにもなり、また農業を通じて、感性も研ぎ澄まされていく感覚があり、人生でも今が一番やりがいを感じている。
- ・小澤農場で社会保険や労災に加入してくれることには、大変感謝している。



自社ブランド「八色小町」



ブランドきのこ「八色しいたけ」

< 契約の種類 >	常勤パート契約の従業員 (期限付き雇用。期間は4月1日～11月30日)
< 待遇 >	時給制。社会保険完備（雇用保険、健康保険、年金保険、労災保険）
< 作業日数、時間 >	就業時間8:00～17:00
< 作業内容 >	一連の農作業 (水稻、露地野菜（すいか）、しいたけ栽培など)

多様な働き方人材を採用してみてもいい

- ・「農×Winter」を通じて人材を確保することができ、特に人手が不足する夏場のすいかを収穫時期に働いてくれて大変助かっている。ウインタースポーツで鍛えた体力があるので頼もしい。
- ・働きやすい職場にするためには、経営者や従業員に指示を出すマネージャーなどが、率先して多様な働き方について理解し、その人を尊重し、コミュニケーションをよくとることだと思う。
- ・まだまだ人手は必要なので、季節雇用に限らず、通年でも多様な働き方人材を受け入れるつもりである。



令和2年度全国優良経営体表彰
経営改善部門で、
農林水産大臣賞を受賞



未来の農業者育成

小澤農場では、地域交流として、数年前から小中高の子供たちに農業を教えている。これは、食育や農業の魅力発信に繋がる取り組みだが、子供たちの柔軟な発想などから新しい発見もあり、原点に戻って考えてみるなど気づきが得られ、とても刺激になる。

専門人材のリモート雇用により 農業経営に悩む「孤独」から解放

環境緑花工業株式会社 (青森県八戸市)

経緯・概要

- ・1982年に設立の土木・造園工会社だったが、季節や気象に左右されない安定生産の観点から、2015年に植物工場「カーリーナファーム」を新設し、農業に本格参入。
- ・2020年1月、先代社長が急逝し、現社長が急遽後継者として引き継ぐ。社長業の知識も経験も無く、社内にも経営やマーケティングの専門知識を有している従業員もいなかったため、山積する経営課題についてはだれにも相談できず、孤独な状況。
- ・地方では、専門性を持った人材が少ないこと、複数の専門家を正社員として雇用する経済的余裕がなかったこと、コロナ禍でリモートワークが当たり前となったことなどから、リモートワークの販売・マーケティング専門家を探すことに。
- ・2021年4月に募集を開始し、6月に採用。半年間の試用期間を経て、毎年自動更新のパートナー契約を締結。
- ・必要に応じて、青森県のスーパーや市場での野菜の価格や販売状況の視察や、カーリーナファームで生産される野菜の状況を確認。また、農業部門の従業員ともコミュニケーションをとり、現場の情報も把握。
- ・当初は、販売やマーケティングに関する業務が中心であったが、現在では、経営や事業方針についても、複数の企業で培った経験やスキルを活用して対応しており、社長の右腕『番頭』のような存在となって活躍。



植物工場内部



植物工場の温度管理をする薪ボイラーの燃料は造園業の廃棄木材による木質バイオマス等を使用

環境緑花工業株式会社

- <所在地> 青森県八戸市河原木字千刈田12-5
- <代表> 代表取締役 山谷 幹樹
- <法人設立> 1982年2月
- <売上高> 2億5,000万円(造園業込)(2021年度)
- <社員数> 29名(役員4名(男2、女2)、管理職1名(男1)、一般社員18名(男16、女2)、常勤パート3名(女3)、アルバイト3名(男1、女2))
- <事業概要> 施設野菜(ミニトマト、いちご、葉物類)の生産、土木工事、造園工事、緑化用樹木等生産販売等
- <経営規模> 施設(植物工場)25a、樹園地3ha(花卉園芸)

多様な働き方人材の声



A 氏

【略 歴】東京近郊に在住。販売やマーケティングなどの業務系コンサルタントとして独立。フリーランスの専門家で、他の企業とも契約。

【時間配分】時間に縛られない働き方。通常は、リモートで相談にのり、課題に取り組む。月に1回程度は現場を訪問。

【働いてみた感想】

- ・リモートワーク中心であっても、作物の状態や従業員が農作物が売れて喜ぶ顔などを、実際に現場で見て感じることを大切にしている。ビジネスライクな東京の仕事と違って、この仕事は、本当に現場で困った課題を真剣に解決することができて、やりがいがある。
- ・社長が経営課題を隠さずに公開してくれることで、会社の一員であると感じられることにも満足しているが、現場の従業員との距離感がより縮まれば、更に仕事もやりやすくなると思う。



専門人材を交えたミーティング

< 契約の種類 >	パートナー契約（契約は毎年自動更新）
< 待遇 >	月給制。社会保障の負担はない（個人加入）
< 作業日数、時間 >	業務時間、場所の拘束はない。（業務はリモート会議やLINEで行う。平均月1回の現地訪問）
< 作業内容 >	農業部門のサポート的な業務（農産品の販売方法やマーケティングなどを中心とした調査、提案など）

多様な働き方人材を採用してみてもいい

- ・専門家が必要な時期は限定されていることが多く、毎日出勤する必要がない場合も多い。そのため、必要な時に働いてもらえる働き方は、経営面でも負担が少なく助かる。
- ・問題解決に要する時間が早いことが一番大きい。夜でもSNSなどのコミュニケーションツールを活用し、情報を共有することで、効率よく業務を進められている。
- ・リモート勤務のため、当初は物理的な距離もネックとなり、他の社員との関係性も薄かったが、月1回ほどの訪問を重ねる中、他の従業員とも交流し、現場感覚などが培われていった。
- ・社内情報をオープンにして風通しを良くしていることもあり、リモート勤務でも会社への帰属意識が生まれ、率直に意見が言える環境ができている。
- ・リモート勤務の専門人材採用については、ノウハウができたので、今後も、人材採用サイトなどを活用して、必要な人材を採用していきたい。



カリナファームで栽培したミニトマト「カラフルミニ」

BREAK

リモートワークの人気

リモートで働ける人材を募集した際、全国から3日で44人の応募があった。その大半が地元青森県出身者であった。地元のために何らかの貢献をしたいといった声は多く聞くものの、なかなかI・Uターンまでの行動とはならないのが現状。そのような中、リモートワークという働き方には魅力があり、大きな可能性がある。

専門人材のリモート雇用により6次産業化を推進

株式会社瀬戸内ジャムズガーデン (山口県大島郡周防大島町)

経緯・概要

- ・2001年、当時電力会社に勤務していた松嶋社長がパリでジャム専門店を訪れたことがきっかけで、2003年、奥様の実家がある周防大島に手作りジャム専門店を創業。併せて、島の耕作放棄地を借り受けて自社農業部門を立上げ。
- ・現在は、酒造事業や自家製ジャムを活用したスイーツが楽しめるカフェギャラリーも運営するなど6次産業化を推進。
- ・2018年、事業の拡大に伴い、Webの専門家を募集したが、地方の小さな島では専門人材と出会うことは難しい状況だった。
- ・フルタイム勤務にこだわらず、適時に的確な支援を得られればと、東京のNPO法人を介して、通信会社勤務でWebマーケティングを行っているN氏を採用。専門家のダブルワークのため、雇用契約ではなく、フレキシブルに動けるパートナー契約を結ぶ。



自社果樹園



カフェギャラリー

- ・週1回のリモート打ち合わせが基本。必要に応じてZoomなどでの相談業務や、現地出社もある。
- ・また、役割を限定することなく、関連する領域の個別の業務や課題解決などにも可能な限り対応している。

株式会社瀬戸内ジャムズガーデン

- <所在地> 山口県大島郡周防大島町日前331-8
- <代表> 代表取締役社長 松嶋 匡史
- <法人設立> 2011年6月法人化(2003年11月個人事業として創業)
- <売上高> 1億1,400万円(2021年度)
- <社員数> 24名(役員2名(男1、女1)、管理職5名(男1、女4)、一般職7名(男1、女6)、常勤パート10名(男1、女9))
- <事業概要> 農産物(ブルーベリー、いちご、柑橘類)の生産、ジャム・リキュールの製造販売、観光農園、カフェの運営
- <経営規模> 畑1ha 施設(ビニールハウス)40a

多様な働き方人材の声



N 氏

【略 歴】長年、東京都内の大手通信会社に在籍。経験を活かし、Webマーケティングを担当。専門知識を活用しながら、漁業・伝統工芸会社等も支援。50代。

【時間配分】時間に縛られず、ミッション単位での対応。Webマーケティング以外にも必要に応じて自分の許容時間内に支援。

【働いてみた感想】

- ・基本、東京からのリモート業務だが、この関係性と距離感は現状がベスト。
- ・農業という自然を相手にする仕事に携わっていることは幸せ。人生感が180度変わった。東京では経験できない、新たな価値を見出すことができた。将来、2拠点居住をすることも良いと思っている。
- ・雇用する側もされる側も活躍の場が広がるので、地方と都心部での人材マッチングのハードルがもっと低くなれば良い。



第50回日本農業賞「食の架け橋の部」大賞受賞につながった自家農園レモン100%の「瀬戸内のレモンチェッコ」

< 契約の種類 >	パートナー契約（契約は毎年自動更新）
< 待遇 >	月給制。社会保障の負担はない（本業の通信会社が負担）
< 作業日数、時間 >	ミッション単位での対応、業務時間、場所の拘束はない。（週1回リモート会議、随時相談に対応し、必要に応じて現地訪問）
< 作業内容 >	オンラインでのWebマーケティング業務（サイト運営、販売方法の検討など）

多様な働き方人材を採用してみて・・・



松嶋社長

- ・HP作成を以前は外注していたが、Webマーケティングの専門家を採用したことで、最近では顧客満足度が向上しており、期待していた以上の結果が出ている。
- ・過疎地の島での経営環境を知ってもらうため、最初の頃は毎週訪問して実際に現地の空気を感じてもらったこともあり、特に問題なく、お互いに業務がスムーズに行うことができた。
- ・時流に合わせたシステム改変の提案を受けるなど、経営にも深く関わってもらい助かっている。

・多様な働き方の人材とは、お互いの立場を理解するために、望む働き方や条件について事前に十分な話し合いをすることが重要で、また、Win-Winの関係を構築するためには夢を共有することが一番重要。

・組織に無い専門知識を外部から入れるために、多様な働き方の人材を、これからも積極的に活用していきたいので、人材とのマッチングの仕組みがもっと充実すれば助かる。

BREAK

島を救う特産物紹介のHP

2018年、貨物船の衝突事故により、大島と本土をつなぐ橋が壊れて1ヶ月くらい通行止めが続いた。その際、N氏が島の特産物を紹介するHPを1週間程度で作成。その結果、島の業者はオンライン上で取引することができるようになり、島民に大変喜ばれた。

多様な働き方人材とともに耕作放棄を再生

農事組合法人MYTURN（SCOOP FARM） （千葉県夷隅郡大多喜町）

経緯・概要

- ・新型コロナウイルスの感染拡大により、本業であるインバウンド関連事業が減少したことから、2021年にアグリ事業の立ち上げに着手。
- ・「日本の美しい農業とその景観を守りたい」「後継者のいない農家を継続維持させたい」という思いから、MYTURNを2021年10月に設立。



自社農園 Scoop Farm

- ・里山の耕作放棄地を活用した自社農園で、化学肥料や農薬を使わず体にやさしい農産物を生産。都内の有機食材チェーン店などで販売し、有機栽培の農場体験プログラムも実施。
- ・都会での仕事と地方での農業との掛け持ち（デュアルライフ）の実現を目的としたアグリ事業を開始し、人材を積極的に募集。
- ・採用時に、勤務日数や業務時間、業務内容などの働き方を交渉。農場で必要な作業や個々人のスケジュールに応じて就労時間を決定。
- ・多様な働き方の人材を活用し、古民家を利用した農カフェ、ニンジン、芋などの加工・販売など6次産業化を推進。

農事組合法人MYTURN

- <所在地> 千葉県夷隅郡大多喜町森宮642
- <代表> 代表 阿部 道広
- <法人設立> 2021年10月
- <売上高> 1億1,400万円（2021年度 グループ全体）
- <社員数> 8名（役員4名（男2、女2）、従業員2名（男2）、パート2名（女2））（2023年1月）※2023年3月より正社員を採用予定。
- <事業概要> 農産品（さつまいも、ジャガイモ、トウモロコシ、トマト、ニンジンなどの露地野菜）の生産・加工、消費者直売、農業体験
- <経営規模> 1.5ha

多様な働き方人材の声



M 氏

【略 歴】長年、大手IT企業のエンジニアとして活躍。現在はフリーランスとして独立。一般企業向けのITコンサルティングからシステム構築の企画、設計等を行う。50代。

【時間配分】農作業（1～2割）、ITコンサルティング業務（8～9割）。

【働いてみた感想】

- ・本業（IT業務）で安定した収入があるため、ライフワークの充実、健康、社会的意義のために農業を行っている。
- ・本業を重視した働き方により、リラックスでき、楽しく働くことができている。
- ・もともとスマート農業に関心があり、MYTURNが目指しているドローンでの農薬散布、大学との共同研究によるAI画像認識システム活用などの話にも共感。
- ・将来的にはMYTURNの生産管理システム導入などにも関わりたい。



直売所（無人）の出荷状況はSNSで配信

< 契約の種類 >	契約社員契約（時短勤務）
< 待遇 >	月給制。社会保障完備（雇用保険、健康保険、年金保険、労災保険）
< 作業日数、時間 >	2～8時間/日。農作業：2～10時間/週（就業時間5:00～18:00の内）、システム関連業務：2～10時間/週（時間拘束なし）
< 作業内容 >	一連の農作農産品の販売業務、システム構築・導入・管理（2022年12月時点）

多様な働き方人材を採用してみて・・・

スタッフ募集中

千葉県大多喜町、自然豊かな里山で一緒に農業しよう！

働き方や時間はあなた次第
ダブルワーク、テレワークも調整可能です。

農業体験や住民研修、もてなす会、イベントも開催予定！
あなたの得意なこと、やってみたいこと、経験できるスキルを

SCOOP FARM



SNSを活用したスタッフ募集広告

- ・デュアルライフを望む人材を募集したところ、応募者が殺到。多様な働き方を望む就農希望者が思いのほか多く、大変驚いた。
- ・採用した方々は、ITや不動産、管理栄養士、デザイン、ECなどの経験を活かして様々な形で貢献している。
- ・多様な働き方人材の雇用に1度失敗しただけで、「副業では農業は続けられない」「フルタイムでないと長続きしない」などと決めつけるのは早計。
- ・大手企業でも新卒社員は数年で1/3程度の人材しか残らない中、たとえ1/5でも長続きする人材がいれば満足と考えるべき。志望者の話を聞いて、農業を体験してもらった後に、様子を見守りつづける姿勢が重要。

・今後は、宿舎など最低限の生活環境だけでなく、インターネット環境なども整備し、都会からの移住人材の受け入れ体制の充実を図っていく。



専門人材の地域貢献

多様な働き方人材の中に管理栄養士を本業とするスタッフがおり、6次産業化の中核となる農カフェのメニュー開発の助言のほか、近隣の民泊施設を活用した“断食農場”プログラムなどの開発のアイデアなどが進行するなど、地域ぐるみでの地域経済活性化のきっかけにもなっている。

地方自治体と連携し、 Iターン人材を積極的に受け入れ

有限会社三隅町農業支援センターみらい (島根県浜田市)

経緯・概要

- ・地域住民とJAしまね、浜田市が出資し、地域でリタイヤしたシニアの受け皿として、2004年に農業生産法人みらいを設立。2007年に有限会社化。
- ・農業を一切使用しない「水澄み米（みすみまい）」などの生産の他、農作業受託などを行い地元地域の農地や水源、環境を守っている。
- ・高齢化が進む中山間地のため、設立当初は、60歳以上の従業員のみだったが、収益の観点から、冬場に自分で稼ぐことができる移住者の受け入れを進める。



みらいのある井野地区の産業は稲作中心
棚田の美しい風景が広がる



三浦取締役（中央）、
従業員と浜田市職員

- ・2013年にIターン人材が入社。Iターン人材の意見も取り入れ、社会保障制度等を2018年に充実させる。
- ・自社HPがないため、浜田市農林業支援センターの協力を得て、Iターンの人材募集を行っており、職場環境整備や移住に関する手続き等も連携。

有限会社三隅町農業支援センターみらい

- <所在地> 島根県浜田市三隅町井野へ1816-2
- <代表> 代表取締役 川本 聖光、取締役 三浦 崇夫
- <法人設立> 2004年 設立、2007年 法人化
- <売上高> 4,400万円（2021年度）
- <社員数> 10名（役員1名(男)、管理職1名(男)、一般職3名(男2、女1)、常勤パート5名(男5)）（2022年）
- <事業概要> 農産物の生産、JAの育苗センターとライスセンターの運営や地域の農作業受託。約8割が水稻で、他に大豆や蕎麦、栝（こうぞ）などを栽培。
- <経営規模> 田16ha、畑4.7ha

多様な働き方の人材の声



Y 氏

【略 歴】三重県の農業高校で有機農法を学び、有機農産物販売会社で8年間勤務後、バックパックで海外を旅する。2013年に小学校の頃からの夢である就農のため島根県に移住。林業、害獣駆除も行う。30代。

【時間配分】農業（6割5分）、林業・害獣駆除等（3割5分）



H 氏

【略 歴】27歳からバックパックで海外を旅する。帰国後、静岡の茶農家などに勤務したのち、島根県に移住。林業にも従事し、芸術分野で生計を立てる道を模索中。30代。

【時間配分】農業（9割5分）、林業の手伝いや個人の農業（5分）

【働いてみた感想】

- ・縁もゆかりも無い過疎地域に飛び込んだが、地域に根差した会社に入社することで、地域に溶け込むのが早かった。職場、地域の方とも良好な関係が築けている。暮らしやすい地域、働きやすい職場で大変満足している。
- ・会社は、働きやすい職場にしようと、意見を聞いてくれる。困りごと、心配ごとは、経営側と従業員側のコミュニケーションを通して解決する文化が醸成されている。

< 契約の種類 >	常勤パート契約（期限付き契約）
< 待遇 >	時給制。社会保障完備（雇用保険、健康保険、年金保険、労災保険）有給休暇・残業制度あり
< 作業日数、時間 >	就業時間8:00～17:00。時間調整可能だが、基本的に繁忙期（3～11月）は、みらいでの作業を優先。
< 作業内容 >	一連の農作業

多様な働き方人材を採用してみてもいいかも

- ・Iターンの2名は、地元で育った人間では思いもよらない新たな視点で、業務改善に向けて様々な提案してくれる。これが一番のメリットである。

例えば、受託業務（育苗センターとライスセンター）の人員シフトの改善提案により、生産性向上に貢献してくれた。また、活気が生まれ、職場環境が良くなった。期待以上の成果を挙げている。

- ・外部からの移住者と農業経営体がWin-Winの関係性を構築するためには、単なる働く場の提供だけではなく、処遇や風通しの良さなどの組織文化、コミュニケーションをよくとることが大切。

- ・山間部の小さな圃場が分散して農地の集約化は難しく、後継者候補も少ない地域だが、今後、5年計画で2～3haの拡大を考えており、様々な魅力がある多様な働き方の人材も活用していきたい。



三浦取締役

BREAK

生活の質の高める職場環境

みらいは、社員にとって、ただの働く場だけではなく、生活の質（QOL：Quality of Life）の高い生き方を実践する場であることを重視している。QOLの高め方は、本人が何を大切にすることもよるが、会社としては、稲作に集中できる環境づくりはもちろん、雰囲気の良い職場づくり、コミュニケーションの活性化等、地域の方々や支援センターとも一緒に取り組んでいる。

専門人材のリモート雇用により 農業経営に悩む「孤独」から解放

農事組合法人YONESATA (山口県岩国市)

経緯・概要

- ・2015年7月に設立。現在、トマト中心のハウス栽培、ネットでの直販や農業未経験者に対する農業体験、新規就農希望者に対して就農支援などを行う。また、大学生のインターンの受入れも行っている。
- ・農業文化のない地域では、働き手の確保が非常に難しく、遊びながらの就農希望者でも来てほしかったため、農業に興味はあるが実態を知らない人にも農業を体験してもらおうと、「農業・酪農求人サイト」を活用して農業体験の希望者を募る。
- ・様々な動機を持つ応募してくる体験者の中から、農業に従事したいという希望者をパートとして採用したことが多様な働き方人材の採用の始まり。
- ・多様なライフスタイルを尊重し、空いている時間に楽しく農作業に従事する新しい雇用のスタイルを実現。
- ・農業体験を経て就農する人のうち、半数以上が早い段階であきらめてしまい、独立までたどり着けるのはごく少数であるが、ライフスタイルを尊重して雇用しているパート従業員は平均4、5年くらい継続して働いている。



YONESATAの従業員の皆さん

農事組合法人YONESATA

- <所在地> 山口県岩国市由宇町北 天神原2633-3
- <代表> 代表 佐多 正晃
- <法人設立> 2015年7月
- <売上高> 2,000万円(2022年)
- <社員数> 15名(男2名、女13名(うちパート10名)) (2022年)
- <事業概要> 施設野菜(トマト、きゅうり、いちごなど)の生産、販売、オンラインを中心に消費者に直販、新規就農支援事業、農業体験
- <経営規模> 施設(ビニールハウス)40a
- <農業体験> I・Uターンを検討している農業未経験者向けに農業体験を、年に2、3回程度実施している。参加費は1名2,000円/日で、定植作業などの体験を行う。受け入れ期間は、1日~6週間。農業経験者が、農作業や農業経営のことだけでなく、田舎で暮らすことなど、色々な話をし、就農するかを迷っている体験者のサポートをしている。

多様な働き方の人材の声



S 氏

【略 歴】地元在住の祖母や両親がトマトを購入していた。山口市内の寺で働きながらも、農業への思いが強く募り、2020年6月にYONESATAで就業。20代。

【時間配分】農業（2割：YONESATAの勤務は1日/週。）、寺院の業務（8割）。

【働いてみた感想】

- ・寺の仕事と農業を両立できるような場所がほとんどない中、出勤日数や働く時間など柔軟に対応してくれるため、非常に助かっている。
- ・初めは、「思っていたより農作業は肉体的にもキツイ」と感じたが、徐々に慣れ、もっと農業に関わりたいと思うようになり、1日の労働時間を長くしてもらった。
- ・年齢の近い女性が多い職場であるため、非常に打ち解けやすかった。とても働きやすい職場なので、今後も両立していきたい。



主力商品「ぜいたくトマト」

< 契約の種類 >	パート契約（雇用期限の定めなし）
< 待遇 >	時給制。作業時の労災を除き、社会保障の負担はない（本業側が負担）。
< 作業日数、時間 >	就業時間8:00～16:00。都合の良い時間に農作業を行う。
< 作業内容 >	一連の農作業

多様な働き方人材を採用してみても・・・



佐多代表

- ・課題であった人材確保の難しさについては、農業体験の実施や体験者の口コミを通して、プライベートを尊重する働き方を導入したおかげで解消。今では人材確保は容易になった。
- ・農作業はチームで行うため、チームの輪に入れるかどうか重要になる。一般的に農業従事者は寡黙な人が多いが、農業を楽しめる素直でコミュニケーション能力の高い人材の雇用を心がけている。
- ・応募してくる人材のほとんどは就農経験の無い人ばかりだが、仕事については、教えたとおり、周りの従業員と同じ思いで前に進んでくれるので、リーダーの指示のもと、一定期間作業を行うとスキルがめきめきと上がる。即戦力になるこだわりの強い経験者よりも一緒に働きやすい。
- ・当初プライベートを優先する働き方を導入すると、シフト調整が大変だと考えていた。特に金曜日は出荷が集中するので、人のやり繰りを心配していたが、皆が金曜日にはプライベートの時間は入れずに空けておくという雰囲気になっている。また、良好な人間関係ができ、業務の改善や仕事のやり方についても、パート従業員から自発的に声があがるようになった。

新型コロナウイルスの感染拡大を機に、 空港から畑に出勤

出向元

株式会社JALグランドサービス
(JGS)
(千葉県成田市)



出向先

有限会社さかき
(千葉県香取市)

経緯・概要

- ・JALグランドサービス(JGS)は、国内の航空輸送のグランド・ハンドリング業界の草分けとして、1957年3月1日に設立。
- ・成田、羽田、大阪、福岡、札幌、長崎の各空港において、日本航空をはじめとする世界の主要航空会社の地上サービスを担う。
- ・新型コロナウイルス感染拡大による移動制限などで観光やビジネスで空港利用者が激減した2020年初春、従業員の雇用維持と外部で経験を積む人材育成を目的として、JGS成田支店の従業員を社外出向させる取り組みを検討。
- ・合計13社に従業員と出向させる協定を締結。この内、農業法人は有限会社さかき他3社。2020年5月から派遣を開始。
- ・管理職以外のほぼ全従業員に、年齢・性別を区別することなく声をかけ、所属組織長と相談のうえ、派遣先を決定。
- ・2022年までに、農業法人へ約60名が出向。(現在、本取り組みは終了。)



安心かつ迅速な空港地上サービスを提供

< 形態 >	在籍型出向
< 待遇 >	給与・手当、社会保険等は出向前と同じ。作業時の労災は、出向先が負担。 ※さかきが、取り決めた時給を一旦JGSへ支払い、社内給与との差分はJGSが負担して従業員に支払われる。
< 就労時間、期間 >	出向先により異なる。土日に関係なく、農業法人3社に、各2~10名程度が出向。期間は1ヶ月単位で最長6ヶ月。

従業員を農業法人へ出向させてみて・・・

- ・新型コロナウイルス感染拡大の影響で、業務が激減した従業員の雇用維持を図るための施策としては成功。
- ・他業界で経験を積み、従業員の視野を広げるといふ人材育成の効果も実感できた。様々なシナジー効果を発揮してくれることを期待している。
- ・いろいろなことに挑戦できるチャンスと捉えた前向きな社員も多く、従業員はリフレッシュし、戻ってきてから活気に溢れている。
- ・従来から社会貢献の観点から地域イベントに多くの従業員が参加しているが、今回の地域の農業法人への出向は、地元の方々が多く関わっているおり、地域との結びつきが一層強くなった。

出向先の概要

- ・さかきは、1993年10月に設立した農事組合法人と郷園の組合員。
- ・20haの土地で主力のトマトをはじめ、露地野菜、施設野菜の多種多様な品目を生産し、青果向け販売・外食加工向け販売・直販と複合経営を行う。
- ・2021年の春、新型コロナウイルス感染拡大のため技能実習生が帰国し、農繁期に労働力が不足する心配があった。その頃、JGSの従業員の受け入れの相談があり、JALグループの社員であることの安心感もあり、5月に協定を締結。
- ・繁忙期にあたる2021年10～11月の2ヶ月間で4名、2022年も別の社員4名を受け入れ（累計8名）。



農場風景



主力商品のトマト（フルティカ）

実際に受け入れてみて・・・

- ・まずは、2ヶ月間のスポットでの支援であったが、農繁期であったため非常に有難かった。
- ・JALグループの社員は、大手企業の出身ということもあり、しっかり教育されていて、作業の理解力も早かった。普段から空港で荷物などを扱っていることもあり、力仕事にでも迅速かつ丁寧に対応してくれた。



さかきの従業員の皆さん

- ・以前は、人材派遣会社から、短期雇用の受け入れや、農繁期のアルバイト求人などを利用して対応していたが、JGSからの従業員は仲介手数料もなく、コスト面でも助かった。
- ・受け入れに際して、労働時間の管理に必要なタイムカードレコーダーを導入したほか、新たに休憩スペース、冷蔵庫、洗濯機を準備し、少しでも快適に働けるような環境を整備した。
- ・今後も機会があれば出向人材を受け入れていきたい。

出向元企業

株式会社JALグランドサービス (JGS) 成田支店

- <所在地> 千葉県成田市古込字古込1-1 成田オペレーションセンター
- <代表> 代表取締役社長 執行役員 上島 治
- <法人設立> 1957年3月1日
- <売上高> 198億円 (2021年度)
- <社員数> 2,109名。うち成田支店 約950名 (2022年4月1日現在)
- <事業概要> 航空輸送のグランド・ハンドリング事業

出向先農業法人

有限会社さかき

- <所在地> 千葉県香取市新里1338
- <代表> 代表取締役社長 木内 克則 (JAL Agriport株式会社の役員兼務)
- <法人設立> 1993年
- <売上高> 2億4000万円 (2022年9月)
- <社員数> 22名 (役員1名 (男1)、正社員7名 (男7)、常勤パート14名 (男1、女13))、技能実習生10名受け入れ (男5、女5) (2022年12月現在)
- <事業概要> 露地野菜 (さつまいも、ごぼう、人参、ホウレンソウ)、施設野菜 (トマトなど) の生産・販売
- <経営規模> 露地野菜18.5ha、施設野菜1.5ha



JALグループの地域との連携強化

新型コロナウイルス感染拡大の影響をきっかけに、他のJALグループ会社でも、地元の道の駅に出向するといった取り組みや、地元産野菜を使った農家レストランをオープンするなど地域との関りを強めている。

シニア層のキャリア創出と 地域社会との良好な関係構築を実現

出向元

ダイハツ工業株式会社

出向先

農事組合法人
山之上生産組合
組合員：
株式会社ファームタケヤマ
(滋賀県蒲生郡竜王町)

経緯・概要

- ・ダイハツ工業は自動車の製造などを主に行っており、滋賀工場は、1974年に第一地区、1989年に第二地区が操業開始。
- ・先端設備の導入により省人化が実現。また、50代の従業員割合が、まもなく3割になることが想定される中、シニア層のキャリア創出が課題となり、多様な働き方を支援する必要があった。
- ・2019年、山之上生産組合とダイハツ工業幹部の会合を機に、同組合員への出向の検討がスタート。2020年8月、両社の間で「社員出向（社外応援）に関する議定書」締結。
- ・出向希望者は手挙げ方式で、各部門の課長の承認により決定。現在39人の従業員が出向登録中（うち50代が35人）。出向人数は、現在3人（2022年10月時点）。
- ・出向先での作業内容は、危険を伴わない野菜の播種・収穫、果樹園内・園芸ハウス内の作業、直売所や道の駅での販売（計量や袋詰めなどの作業）など。



滋賀工場の様子

< 形態 >	在籍型出向
< 待遇 >	給与・手当、社会保険等は出向前と同じ。 作業時の労災は、山之上生産組合が負担。 ※ファームタケヤマが、ダイハツ工業に労働時間を毎月報告し、時給換算した費用を一旦山之上生産組合に納付。山之上生産組合が、ダイハツ工業へ支払い、社内の給与との差分をダイハツ側で負担して従業員に支払う。
< 就労時間、期間 >	就労時間は、8:30~12:00と13:00~16:30の半日単位。出向日数、時間は、農業法人の要望で決定。

従業員を農業法人へ出向させてみて・・・

- ・地域貢献に資する取組であり、セカンドキャリアの創出に関しては、一定の効果がえられた。企業としてのイメージ向上にもつながる取組み。
- ・農作業で自然に触れることにより、参加した従業員はリフレッシュしている。
- ・直売所で自ら育てた農産物を販売し、お客様に喜ばれた体験など、異業種での経験が仕事へのモチベーション向上につながっている。
- ・取組みの開始時、工場外の勤務に対して、社員側に多少の戸惑いが見受けられたが、人事の協力を得て丁寧に説明し、理解・納得を得ることができた。
- ・この取組みをきっかけに、他のセカンドキャリアの施策も動き出している。例えば、今回、関係が深まった派遣先の農家からアドバイスを受け、工場近隣の竹林の竹から作った炭を道の駅で販売するなど、地域活動の範囲も拡げている。



直売所で働く出向社員（左）

出向先の概要

- ・山之上生産組合の組合員である株式会社ファームタケヤマは、2012年4月に法人化。稲作、果樹を中心とした農作物の生産、農作業の受託、直売、観光果樹農園運営などを行っている。
- ・離農する圃場を預かるケースも増え、また従業員の高齢化や人手不足が顕在化してきたことから、人材の受け入れを検討。
- ・他の農業法人に出向しているダイハツ工業社員の高い評判を聞き、従業員が退職したことを契機に、受け入れを決定。

実際に受け入れてみて・・・



ファームタケヤマの
果樹園

- ・当初、出向者が農業未経験のシニアが中心であるため、どの程度の作業ができるのか不安だったが、芽かきや梨の適果などの危険を伴わない軽作業を担当してもらい、十分な戦力となっている。労働時間、作業内容などを工夫することで、人海戦術もでき、期待以上。
- ・雇用日数の縛りもなく、スケジュールが合えば前日に依頼することもでき、半日の作業でも頼むことができる。1日の予定であっても、午前中に作業が完了した場合は半日で終了してもらうことも可能であり、利便性が高い。
- ・出向契約には、免許が必要な大型機械を扱う作業はさせない、作業の合間に休憩を取らせるよう取り決めがある。効率よく業務が行えるよう、指示の出し方を含めてマネジメント方法の改善にも積極的に取り組んでいる。
- ・圃場を増やす計画もあるので、今後も受け入れは継続したい。

出向元企業

ダイハツ工業株式会社

- <所在地> 大阪府池田市ダイハツ町1番1号
- <代表> 代表取締役社長 奥平 総一郎
- <法人設立> 1907年3月1日
- <資本金> 284億円
- <事業概要> 自動車、産業車両、その他各種車両およびその部品の製造、販売、賃貸および修理他
- <滋賀(竜王)工場>
 - ・所在地 滋賀県蒲生郡竜王町大字山之上2910番地 /3000番地
 - ・社員数 4,171名(第一地区2,410名、第二地区1,761名)(2022年6月1日時点)

出向先農業法人

農業組合法人山之上生産組合

- <所在地> 滋賀県蒲生郡竜王町大字山之上6969番地
- <代表> 寺島 健一
- <法人設立> 2015年10月
- <売上高> 850万円(2022年9月)
- <事業概要> 組合員数153名、経営面積60ha、果樹と野菜の生産

組合員 株式会社ファームタケヤマ

- <所在地> 本社：滋賀県蒲生郡竜王町山之上3401
- <代表> 竹山 勉
- <法人設立> 平成24年(2012年)4月
- <売上高> 約1億円(2022年3月)
- <社員数> 7名(役員2名(男1、女1)、従業員5名(男5))
- <事業概要> 農作物の生産、農作業の受託、直売、観光果樹農園運営。生産品目は、稲作、麦類作、大豆、露地野菜(キャベツ)、果樹(ブドウ、梨、いちじく)、花卉(ユウカリ他)。稲作、果樹が中心
- <経営規模> 水田：50ha、樹園地：1.3ha

県外移住のスタッフ、選手が農業を通じて地域に貢献

所属元

南紀オレンジサンライズFC
株式会社Re・Side
(和歌山県田辺市)



副業先

てらうめ有限会社
(和歌山県日高郡みなべ町)

経緯・概要



・南紀オレンジサンライズFCは、2022年より本格始動した移住と農業を組み合わせた新しい社会人サッカークラブで、ほとんどの選手・スタッフは県外の移住者。

・ホームタウンである田辺市とみなべ町は梅の生産地として知られ、2015年12月には世界農業遺産に認定されているが、梅農家では高齢化や後継者問題に直面。

・チームスタッフ及び登録選手がサッカーだけでなく、農業の後継者問題や少子高齢化などの地域の課題解決に取り組み、地方創生を実現させる取り組みをスタート。

・2021年末からサッカークラブの運営会社である株式会社Re・Sideが、各企業や農家と交渉し、2022年末には、みなべ町と田辺市にある農業法人3社、梅加工会社2社など約20社で、監督をはじめ、チームスタッフ、登録選手が働く。

< 形態 > スポーツ事業部所属の正社員、パート契約の従業員等の副業斡旋。
※登録選手は、雇用関係がないため、就職先の斡旋。
運営会社が所属元となり副業先と契約。

< 待遇 > 給料・手当（副業先により異なる）、作業時の労災あり」。

所属元企業
・正社員：給与（月給制）・手当、社会保障（雇用保険、健康保険、年金保険、労災保険）
・パート契約従業員：給料（月給制）・手当、スポーツ保険

< 就労時間、期間 > 試合と練習の時間は避け、副業先との交渉で決定。

従業員を農業法人に副業斡旋してみてもいい

- ・地域とも良い関係が構築できている。サッカーにあまり興味のない農家の方にもチームを応援してもらえ、選手やスタッフは、地域貢献の一翼を担うことで、サッカーへのモチベーションが向上している。副業先は、チームのスポンサーでもあり、HPのバナー広告やユニフォームの広告に協力してもらっている。
- ・果樹園での農作業は、力作業も多く、足腰が鍛えられるため、サッカーのトレーニングにもなる。
- ・今後、選手がセカンドキャリアとして、後継者、人材不足の農業で歩めるようにも取り組んでいきたい。



和歌山県社会人サッカーリーグ参入1年目で
リーグ3部で優勝、2部に昇格

副業先の概要

- ・1965年に法人設立したてらうめでは、無農薬・無肥料農法で梅を栽培し、加工や販売を行う。自社農園「てらがき農園」での梅もぎ体験や食育の取り組みなども実施。
- ・通常、繁忙期（5～6月）には臨時のアルバイトなどを採用していたが、Re・Sideからスタッフ受け入れの話を受け、人材を確保、地元チームの応援の観点で、県外人材のサッカー監督M氏を通年雇用。繁忙期は農作業。それ以外は商品の加工工場で作業を行う。



自社農園のてらがき農園

実際に受け入れてみる

- ・これまで当たり前と考えていた商品販売に関することにも意見やアイデアを出してくれるので、大変参考になる。



無農薬、無肥料農法で作る南高梅

- ・仕事以外でもサッカーや地域活動について、SNSを活用して従業員とコミュニケーションをとっていることが、雰囲気の良い職場に繋がっている。今後も雇用を継続したい。

所属元企業

南紀オレンジサンライズFC 株式会社Re・Side

- <所在地> 和歌山県田辺市湊12-26
- <代表> 代表取締役 後藤 大和、 南紀オレンジサンライズFC代表 森永 純平
- <法人設立> 2021年11月22日
- <売上高> 約4,600万円（2022年11月）
- <社員数> 南紀オレンジサンライズFCのスタッフ：5人（Re・Sideスポーツ事業）
※選手は18名（2022年12月）
- <事業概要> IT事業、サッカークラブ運営、教育事業

副業先農業法人

てらうめ有限会社

- <所在地> 和歌山県日高郡みなべ町西岩代1204
- <代表> 代表取締役社長 寺垣 信男
- <法人設立> 1965年 創業、2006年 法人化
- <売上高> 約5,000万円（2021年）
- <社員数> 7名（役員2名（男1、女1）、従業員4名（男1、女3）、常勤パート1名（男1））
- <事業概要> 果樹（南高梅）生産・加工・販売、食育や梅もぎ体験
- <経営規模> 樹園地5ha



スポーツと地域活性化

南紀オレンジサンライズFCの選手は農業等で収入を得ている。梅農園を持つ井上梅干食品株式会社では、若手のK選手を受け入れた。K選手は、労働に対するモチベーションも高く、力仕事も含め、働きぶりは地元でも評判になっている。あまりサッカーに詳しくない従業員もサッカーに関心を持ち、南紀オレンジサンライズFCを応援するようになった。



井上梅干食品 みなべ店

新たな視点や発想で従業員に刺激を与え、 組織が活性化

出向元

沼尻産業株式会社
(茨城県つくば市)



出向先

株式会社照沼
(茨城県那珂郡東海村)

経緯・概要

- ・1962年に創業した沼尻産業は、つくば市(旧谷田部町)で農産物の物流を手掛ける運送業としてスタートし、1964年6月2日に法人化。2022年には創業60年を迎えた。
- ・地域に根差した企業として、物流事業・倉庫事業・運輸事業・個人向けサービス事業などを展開し、現在、関東圏で27の物流センターを運営。
- ・2020年の前半から、沼尻産業と、出資企業であるさつまいもの生産・加工・販売を行う照沼の両社間で、農産物の物流、新規ビジネス創出などビジネス上のシナジーを前提に協力が検討され、提携することになった。
- ・人材育成と異業種での経験を本業で活かすことを目的に、照沼への社員出向が決定。各部門から農業に関心があり、チャレンジ精神旺盛で将来的にも期待できる人物が推薦され、2021年6月より業務改革推進室担当の1名が照沼へ出向。
- ・出向者は、さつまいもの苗の定植作業や収穫など一連の農作業を経験し、その後は、照沼の新店舗の立ち上げ・運営、都内での催事出店、新規通販事業などの業務に従事。



沼尻産業の「物流・倉庫サービス」

< 形態 >	在籍型出向
< 待遇 >	給与・手当、社会保険等は出向前と同じ。 給与は出向元、残業代は出向先が負担。作業時の労災は出向元が負担。
< 就労時間、期間 >	8:00~17:00。週5日出向先農業法人に勤務。有期出向2年間。

従業員を農業法人へ出向させてみて・・・

- ・異業種で新たな経験を積むことにより出向者は大きく成長した。照沼は茨城県の誇る国産干し芋を全国に、また世界に広めようとして取り組んでおり、同会社が重要視する「チャレンジ精神」を学ぶという意味でも意義が大きい。



出向者 K氏

- ・沼尻産業の企業ブランドイメージの向上にも繋がっている。具体的には、会社のHP上で農業法人への出向に関する動画を紹介しており、リクルートの宣伝として大きな効果があった。

- ・有期出向であり、帰属意識の観点からも定期的に面談を行っている。出向後は、この経験を活かした更なるチャレンジに期待している。

出向先の概要

- ・照沼は代々農業を営み、1962年、干し芋・甘藷・スイカ等の卸問屋として創業。1977年に株式会社化。
- ・農薬・化学肥料を使わない農法が評価され、日本さつまいもサミット 2021「ファーマーズ・オブ・ザ・イヤー」、日本さつまいもサミット2022「さつまいも・オブ・ザ・イヤー（紅はるかの部）」を受賞。
- ・2002年、干し芋加工を本格的に開始し、2007年には干し芋加工工場を新設。
- ・地元で人材をまかなうことは難しく、外国人技能実習生で必要な人員を確保しており、人材（経験と技術を持った従業員）と人員（一定数必要なマンパワー）を管理するマネジメント人材が必要となっていた。



50haの畑でさつまいもを生産



照沼の直売店舗

実際に受け入れてみて・・・

- ・出向者は今まで管理業務なども経験があり、即戦力として、新規事業の立ち上げをスムーズに進めてくれた。
- ・農業経験しかない従業員に対しても、会社組織の視点でどう動くのかといった、今までにはない視点で可能性やモチベーションを高める新しい風を送り込んでくれており、組織が活性化している。



照沼の本社貯蔵庫

- ・受け入れ時の住居手配などの働きやすい環境の整備を行うとともに、出向元との社内ルールや業務の違いについては、コミュニケーションをよくとった。

出向元企業

沼尻産業株式会社

- <所在地> 茨城県つくば市榎戸783-12
- <代表> 代表取締役社長 沼尻 年正
- <法人設立> 1962年 創業、1964年6月2日 設立
- <売上高> 連結61億1,300万円 (2021年9月)
- <社員数> 392名 (男性: 233名、女性: 159名) (2022年9月現在)
- <事業概要> 物流事業、倉庫事業、アーカイブ事業、運輸事業、国際流通事業、個人向けサービス事業

出向先農業法人

株式会社照沼

- <所在地> 茨城県那珂郡東海村照沼601
- <代表> 代表取締役会長 久保居雅基
- <法人設立> 1977年5月 (旧社名: 株式会社照沼勝一商店)
- <売上高> 3億円 (2021年)
- <社員数> 38名 (男性24、女性14)、パート14名
- <事業概要> さつまいもの生産、加工、販売
- <経営規模> 畑50ha

薬に頼らない真の健康を目指し、 「食」の原点である農業を学ぶ

出向元

**ロート製薬
株式会社**
(大阪府大阪市)



出向先

**有限会社
やえやまファーム**
(沖縄県石垣市)

経緯・概要

- ・ロート製薬は、製薬会社として長年歩む中、本当の健康を考える上で、身体の源を造る「食」と、その原点である農業が重要との考えに至り、「薬に頼らない製薬会社へ」を掲げ、食関連事業をスタート。
- ・当時の経営層が「食材の原点である農業に戻って苦労・課題を理解する必要がある」と判断し、2013年から沖縄県石垣島の「やえやまファーム」に従業員を出向させ連携。
- ・現在、10名（男9名、女1名）の従業員が、やえやまファームとその関連会社に出向（累計約30人）。



ロートの食関連事業
(カフェレストラン「ロートレシピ」)



循環型農業の食材を使用し、フードロスの削減にも取り組む

- ・やえやまファームへの出向者は、20～50代の幅広い世代で、現場マネージャーや部門長としての業務に従事。
- ・出向者の選定は、社内公募の上、やえやまファームが動機や適正に基づき選抜し、ロート製薬の人事が承認。10倍程度の応募になる、高い人気。

< 形態 >	在籍型出向
< 待遇 >	給与・賞与・手当・社会保険等はロート製薬の規則に準ずる。
< 就労時間、期間 >	8:00～17:00。週5日出向先の農業法人に勤務。有期出向3～5年。

従業員を農業法人へ出向させてみて・・・

- ・ 出向による効果の一つに、リーダーシップの育成がある。出向者の多くは、マネジメント未経験者だが、全くの未経験の仕事に向き合い、自ら考え、自発的にチャレンジすることで、未知の世界を切り開く力、リーダーシップの形成に役立ち、期待以上の効果が見られる。この経験は出向後業務にも活かされている。



日本唯一の有機パイナップルの畑

- ・ 会社としては、地域貢献・SDGs推進活動としても位置付けており、ロート製菓の企業価値の向上に寄与している。取り組みをホームページ等に掲載することで、採用戦略でも活用し、一定の効果が出ている。
- ・ 月1回ペースの打ち合わせや社員との交流の場を設定し、出向期間中に薄れがちなロート製菓への帰属意識を保つようにしている。

出向先の概要

- ・ やえやまファームは、2002年12月に設立され、沖縄県石垣島で有機パイナップル、養豚、肉用牛など農畜産物の生産を行い、その関連会社とともに加工、販売を行う。
- ・ 「人」を「良」くすると書いて『食』と捉え、健やかな心身を保てる『食』を届け、社会に貢献することを目指す。
- ・ 以前は、石垣島で比較的大規模な農業、畜産業、観光牧場など多角化経営を行っていたが、早期に撤退する事業もあり、収益はあまり良くなかった。
- ・ 収益改善のため、6次産業化、国内外への販路拡大を決定。必要な資金と人材、高い信用度を得るために、2013年、ロート製菓と提携し、従業員の受入れを開始。



FOODEX JAPAN 2019
ご当地ドリンクグランプリ
ソフトドリンク部門の最高金賞を
受賞したパイナップルジュース

実際に受け入れてみて・・・

- ・ 様々な業務知識・経験のある出向社員と接することで、農場、畜産など各部門の生産現場だけでなく、農産物加工、流通・販売など全てのバリューチェーンを見据えて行動するように従業員の意識が変化した。
- ・ 会社だけでなく社会に貢献する意識を持つようになり、石垣島では馴染みのないSDGs、フードロスなどの考え方も従業員の間浸透した。
- ・ 労働時間の管理が徹底され、残業時間も減少した。若手も働きやすい労働環境となった。現場での指導は出向社員が担当しており、従業員への指導方法も丁寧になった。
- ・ 幹部社員による1対1の面談を実施し、モチベーションの維持などメンタル面をケアしている。
- ・ 新規事業も手掛けていくため、雇用も増やす予定。また、一般の早期定年退職者などの人材なども受け入れていきたい。

出向元企業

ロート製薬株式会社

- <所在地> 大阪本社：大阪市生野区巽西1-8-1
- <代表> 代表取締役会長 山田 邦雄、代表取締役社長 杉本 雅史
- <法人設立> 1899年2月22日 創業、1949年 設立
- <売上高> 単体：1,012億700万円、連結：1,996億4,600万円（2022年3月）
- <事業概要> 医薬品・化粧品・機能性食品等の製造販売
- <社員数> 単体：1,599名、 連結：6,866名（2022年3月）

出向先農業法人

有限会社やえやまファーム

- <所在地> 本社：沖縄県石垣市平得554-1 HALSERビル2F
- <代表> 代表取締役 中川 喜隆
- <法人設立> 2002年12月
- <売上高> 約5億円 ※ケレス沖縄の売上と合算
- <社員数> 29名（役員4、従業員20名、アルバイト5名）
- <事業概要> 果樹（パイナップル、マンゴー、シークワーサー等）、肉用牛、養豚など農産物・畜産物の生産。ケレス沖縄とともに、砂糖・塩・酒・清涼飲料水・ジュースなど食品・飲料の商品開発、製造、販売。
- <経営規模> 崎枝農場：50ha、幸福牧場：36ha（肉用牛、豚が数百頭）



SDGs

やえやまファームでは、安全な生産だけでなく、環境への負荷にも考慮し、地域にも密着した持続性の高い農業を目指しており、豚や牛の糞尿から作る堆肥、パイナップルジュースを作る際に出る搾りかすから作る発酵飼料など、必要な堆肥や飼料は可能な限り自社で生産している。最近では、SDGsに高い関心を持つ新卒生からの応募も増え、取り組みが浸透してきている。

リモートワークを活用した共同雇用により 人材を確保

共同雇用企業

**ワークウェア
社会保険労務士法人**
(愛知県知多市)

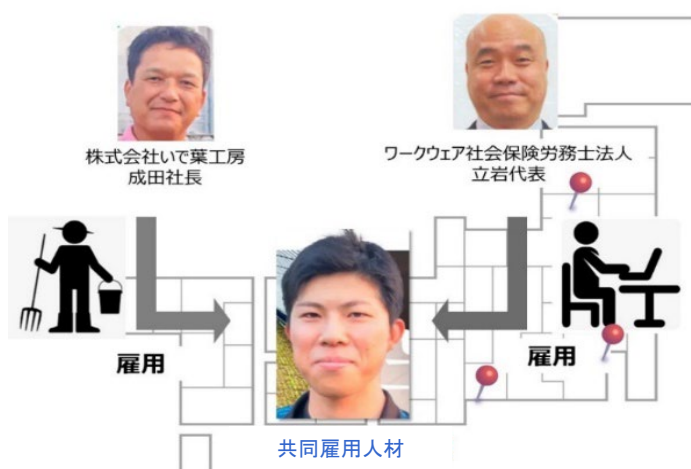


共同雇用農業法人

株式会社いで葉工望
(山形県東田川郡庄内町)

経緯・概要

- ・ワークウェア社会保険労務士法人は、1996年12月に事務所を設立され、現在ITシステム開発会社としての側面も持ち、主に中堅・中小企業向けにサービスを提供し、グローバル支援サービスなども展開。
- ・近年、ITネットワークやクラウドを活用することで、物理的距離を感じずに、すきま時間でも仕事ができる環境になり、活動の選択肢が増えた結果、遠隔ダブルワークが普及。
- ・この流れを強く意識するワークウェア社は、愛知県の本社、東京の事務所に加え、社長の母親の故郷である山形への展開も検討。
- ・2020年3月頃より、山形県で施設野菜を生産するいで葉工望との協議を重ねる。
- ・2021年3月、リモートワークを活用して、山形県で農業に取り組みたい従業員を共同雇用する取り組みがスタート。
- ・フレックス制度を活用し、農作業の繁忙期と閑散期に対応した柔軟な働き方を実現。



< 形態 >	共同雇用（いで葉工望が主たる雇用者で、ワークウェア社会保険労務士法人が従たる雇用者） いで葉工望では常勤パート従業員、ワークウェア社ではパート従業員（両社とも有期契約）。
< 待遇 >	給与は、農業とIT業務の就労時間の割合に応じて、両社が負担。いで葉工望の給与基準がベースで、給与差、繁忙期残業代特別加算は、ワークウェア社が賞与で調整。社会保険は、いで葉工望が負担。作業時の労災は、従事比率で両社が負担。
< 就労時間、期間 >	午前中は農業のシフト勤務、午後はワークウェア社のシステム開発。フレックスタイム制による柔軟な働き方を実現。就労時間の割合は、平均すると6割が、いで葉工望（農業）、4割がワークウェア社（IT）の業務。

従業員を共同雇用してみてもいい

- ・ITのハードな職場環境を脱して、田舎で農業しながらのIT業務は理想的である。農業には、体を動かすことや、臭覚など、IT分野では使わない五感が必要である。農作業は、頭の切り替え、リフレッシュ効果があり、システム設計でも期待以上の成果が出ている。
- ・今回の取組がうまくいっている理由の1つには、両社での信頼関係を前提に、しっかりした契約関係を結んでいることにある。
- ・もともと、複数拠点の開発担当者がリモート業務を行っているため、ノウハウが豊富にあったことも成功要因である。神戸にいるプロジェクトマネージャーが遠隔で指示・コントロールすることで、農作業の繁忙期と閑散期にあわせたシフトの調整も可能になり、農作業の合間でも開発業務を効率的に行えている。

共同雇用先の概要

- ・いで葉工望は、もともとは稲作中心の農家であったが、2018年4月に法人化。経営の方針転換を決め、施設野菜のベビーリーフ生産を開始。
- ・SNSでも積極的に情報を発信し、ベビーリーフを中心とした生産と販売を通じて、地域が笑顔になれるような思いを伝えている。
- ・高齢化・後継者不足、耕作放棄地の増加に悩まされる中、多様な働き方や人材の雇用が必要となっていたところ、ワークウェア社と話を進めていたリモートワークを活用した共同雇用が実現した。



季節に合わせて9種類のベビーリーフをミックス

実際に受け入れてみる

- ・繁忙期と閑散期で労働時間を調整しているが、ワークウェア社の理解もあり、お互いの業務に支障がでないように進められている。



ハウス内での作業の様子

- ・ベビーリーフは比較的作業計画を立てやすい品目のため、共同雇用向きの農産物だと考えている。
- ・共同雇用者はIT技術者なので、社内のシステム管理などもしてもらえることは有難い。
- ・今回の取組がうまくいっているため、あと2名ほど、共同雇用で人材を確保したい。

共同雇用企業

ワークウェア社会保険労務士法人

- <所在地> 愛知県知多市八幡新町2-13-38
- <代表> 代表 社会保険労務士 立岩 優征
- <法人設立> 1996年12月 事務所設立、2007年2月 法人化
- <社員数> 9名（役員1名（男）、管理職1名（女）、一般職1名（男）、コンサルタント1名（男）、システムエンジニア2名（男）、パート2名（女）嘱託1名（男））
- <事業概要> 主に中堅・中小企業向けサービス（社会保険手続・給与計算アウトソーシング／人事労務問題相談／人事制度組織改革コンサルティング／外国人労働者受入支援／健康保険組合設立支援等）

共同雇用農業法人

株式会社いて葉工望

- <所在地> 山形県東田川郡庄内町余目上朝丸74-1
- <代表> 代表取締役社長 成田 浩輝
- <法人設立> 2018年4月2日
- <売上高> 1,800万円（2021年）
- <社員数> 13名（役員3名（男3）、正社員1名（女1）、常勤パート9名（男3、女6））
- <事業概要> 施設野菜（ベビーリーフ、トマトなど）の生産・販売・流通
- <経営規模> 施設1ha（36棟のビニールハウス）